



## 問 水産資源の確保のための伊勢湾再生についての考えは

近年、伊勢湾の海水中のプランクトンが減少し、津市の漁港から漁に出ても魚が取れないと聞く。伊勢湾で取れたこなご小女子、イワシ、アサリ、ノリが食べられないことは大きな問題である。

瀬戸内海では、議員立法による特別措置法で水質の規制緩和が行われ、大阪湾で魚が多く取れるようになってきたそうであるが、水産資源の確保のための伊勢湾再生について農林水産部の考えは。

## 答 どのようにして伊勢湾を再生するかしっかりと考えていく

近年、伊勢湾の水質は改善傾向にあるものの、漁獲量の減少に伴い、海域の豊かさの重要性が指摘されている。そのため、従来の削減一辺倒であった海域への窒素やリンの汚濁負荷量について、状況に応じた水環境管理へと新たな方向性を取り入れた第9次水質総量削減計画を県が策定した。取り組みとしては、下水処理場において海域への窒素やリンを基準の範囲内でできるだけ多く排出する栄養塩類管理運転をしていくとのことである。

市としては、今後、漁業者の方の苦しみ等も聴きながら、関係機関と連携の下、どのようにして伊勢湾を再生するか、しっかりと考えていく。

### その他の質疑・質問

- 公共工事の火薬使用による民家破損に対しては被害家屋の原状復帰による補償を
- 県より譲り受けたズリの現況について
- 総合評価落札方式での入札および契約について
- メンタルヘルス不調による長期休暇・休職中の職員数は
- 成美小学校内の学童保育施設について

▶ 他人の土地へ市営浄化槽を設置し国庫補助金の交付を受けたことは補助金適正化法違反では



## 問 津市の未来のために捨てる勇気、変える勇気は

地域懇談会のこれまでの開催数は。また、何件の課題に対し、何件が解決されてきたのか。

現在開催されている地域懇談会は、現状の問題を解決するために行われている。10年後この町に住みたくなるように、未来を見据えた若者を中心とした地域懇談会を開催してはどうか。

## 答 既存の形も継続しつつ、新しい形でも調整していく

平成27年10月に第1回を開催してから、令和5年2月までに延べ295回開催し、これまで約4,200件の課題に対し、約3,200件が解決・合意に至っている。開始から約8年が経過しているが、新たな課題も出てきており、今後も継続して開催することで、一つ一つの課題を丁寧に解決していく。

一方、少子高齢化が進み、出生率が下がっている中、議員提案の10年後も住みたいと思うような未来のまちづくりを考える上で、若年層を対象とした会議を開催し、意見を直接聞くことは、有効なものと考えており、今後、開催方法等について、調整していく。

### その他の質疑・質問

- 避難所指定されている体育館への災害バルク導入について
- ミサイル発射を想定した訓練について

▶ 災害が起きた際の避難所（安濃中央総合公園内体育館）

